

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 799 号	氏名	六反田 裕美
学位審査委員	主 査	林 善彦	
	副 査	渡邊 郁哉	
	副 査	梅田 正博	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価 本研究は、未だ解明されていない矯正治療において空隙閉鎖時における歯槽骨のリモデリングを含めた長期的な歯の移動動態を評価するため、上顎前歯の抵抗中心、回転中心、パワーアームの高さの相関関係を検証したとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価 上顎前突と診断され、上顎両側第一小臼歯を抜去し、上顎両側臼歯部頬側歯槽骨に埋入された矯正用インプラントアンカーを用いて空隙閉鎖を行った患者の上顎歯列模型を用いた。光学式三次元形状計測装置により歯列模型をスキャンデータとして取り込み、さらに 3D-CG ソフトウェアを使用し三次元画像構築を行った。三次元画像構築された治療前後の歯列模型データと側面頭部エックス線規格写真画像を統合し、上顎前歯の移動動態を求めた。更に種々の統計学的解析法で解析したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、矯正治療における長期的な歯の移動様式と抵抗中心に対してのパワーアームの高さに有意な相関がみられたことを明らかにしており、矯正患者の治療における一つの指針となる可能性があり、今後の歯科矯正学研究への進展が大いに期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は矯正臨床の発展に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			